

地域女性活躍推進交付金(寄り添い支援型プラス) コミュニティカフェ事業(個別事業①)【五島市】

総事業費	3,367千円
交付金額	1,683千円

地域の実情と課題

五島市は島という特異性から、Uターン、嫁ぎ、転勤族等が多い。その多くが島の暮らしに馴染めず、島外の親族・知人等を休日に訪れリフレッシュして島に戻ってくるという生活を送っていた。しかし新型コロナウイルスの影響により島外に出ることが出来ず、孤独・孤立に陥るケース、また、島外で就労していたが、職を失い帰省するも職が見つからず、人間関係も上手く構築出来ず引きこもりになるケースがある。地元住民も地元のシガラミ等により、悩みを多々抱えている。

事業の特徴

島内中心部に「ありとあらゆる女性」が気軽に立ち寄れる居場所を平日9時～16時に開放し、相談に傾聴する気さくな相談員を配置。相談者同士のネットワークを構築。有効利用出来る施策の紹介、連携機関へ繋いだ。

事業の効果

相談来所人数: のべ375名(相談者100名)。
電話／メール相談: のべ47件。
134件の悩みについて連携機関等に同行支援等を実施。相談者の中には、悩みを吐き出すだけで安心・解決した方も居て、数値以上に悩み解決に寄与した。

目的・目標

目的: 相談内容を的確に把握し、連携団体への繋ぎ支援や、潜在的な労働力の掘り起こしを行う。
目標値: 各連携機関への繋ぎ率85%
達成率: 134%達成。

連携団体

- 五島市社会福祉協議会
- 五島市商工会、福江商工会議所
- ハローワーク
- 市役所各課
- 五島保健所
- 医療機関
- 五島税務署
- 弁護士／家庭裁判所
- 五島警察署
- ファミリーサポートセンター
- ネウボラごとう
- 社会保険事務所
- 民間

今後の課題

新型コロナウイルスが収束しても、心身へ後遺症を残すことがある。相談事業を継続し、相談者の「意識変化」に努める。またそのために相談員の研修参加による「スキルアップ」を図る。

事業の概要



コミュニティカフェ事業(個別事業①)

コミュニティカフェ開所日は毎日SNS等を発信。来場者100名(のべ375名)、電話/メール47件。

相談者の内訳は地元と地元以外で、ちょうど半分。年代も10代~60代と幅広く、属性也多岐に渡り、幅広い相談に傾聴した。

連携同行支援内訳

民間:37件、市役所各課:32件、商工会よろず:25件、ハローワーク:19件、税務署:5件、弁護士/家庭裁判所:5件、ネウボラ:3件、社協:2件、保健所:2件、ファミサポ:1件、医療機関:1件、警察:1件、社会保険事務所:1件
 合計:134件
 (一人で複数の悩み抱えている相談者も居るため、相談数100件を超える。)

- 連携・同行支援することで...
- 就労可能者12名中7名が就労。
- どこに相談すれば良いか悩んでいたが、解消した。
- 将来の目標が明確になり、具体的に考えられるようになった。 等々。

連携・同行の他、コミュニティカフェで悩みを吐き出すだけで安心、落ち着いたという相談者もあり、数値以上にあらゆる女性の悩み解消等に寄与した。

